

# 冷却塔の維持管理について

平成 15 年度、建築物衛生法の法令改正によって、レジオネラ症防止対策の観点から、冷却塔に関する維持管理基準が追加されました。さらに、平成 20 年度には、厚生労働省が、「建築物の衛生管理における維持管理マニュアル」の中で、冷却塔に関する維持管理を示しています。

レジオネラ症を未然に防ぐためにも、以下の点に留意しましょう。

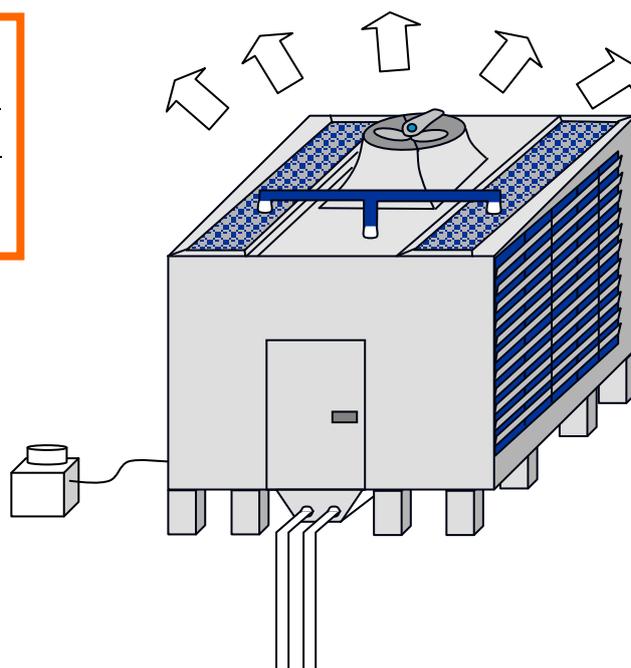
人が出入りできる場所に設置されている場合や近くに外気取入口がある場合は要注意！

## <冷却塔の点検>

- 冷却塔および冷却水について、一月以内ごとに一回、定期的に、その汚れの状況を点検し、必要に応じ、その清掃及び換水等を行うこと（法令）

## <下部水槽の清掃>

- 一年以内ごとに一回、定期的に行うこと（法令）
- 使用期間中は、毎月一回程度の物理的洗浄を行う（維持管理マニュアル）。また、使用開始時及び使用終了時についても物理的洗浄を行う。



## <冷却水管>

- 一年以内ごとに一回、定期的に行うこと（法令）
- 使用開始時及び使用終了後に化学洗浄を実施する（維持管理マニュアル）。
- 循環水の汚れが激しい場合は、ブロー量を多くするか又は全ブローを行う（維持管理マニュアル）。

## <冷却水への殺菌剤添加>

冷却塔の運転中は殺菌剤を連続的に投入することが必要です。また、洗浄殺菌効果を維持するためにスケール防止やスライム防止等の水処理を行うことも重要です（維持管理マニュアル）。

## <冷却塔に供給する水>

水道法第四条に規定する水質基準に適合させるため必要な措置を講じる（法令）と規定されています。冷却塔補給用の水槽を設けている場合は、水槽の清掃等も行い、適切な水質を維持しましょう。

## <レジオネラ属検査>

レジオネラ属菌抑制対策の効果確認とともに冷却水系の適正な管理を行うために必要です（維持管理マニュアル）。

## <年間管理のポイント>

- 冷却塔の清掃・点検・冷却水管の清掃は、年間管理計画に項目を作り、実施漏れをなくす。
- 冷却塔の点検表を作り、状況を詳細に点検し、記録する。
- 冷却水管の清掃は、記録表を作り、清掃実施状況を詳細に記録する。
- 使用殺菌剤の効果を把握し、適切に使用する。

### ○ 水管洗浄剤の種類と特徴

#### ①過酸化水素

有機物を酸化分解し殺菌する。酸素発泡しスライムを剥離させる。

#### ②塩素剤（次亜塩素酸ナトリウム溶液等）

有機物を酸化分解し殺菌する。消費量を見ながらの補充添加が必要である。必要に応じ腐食防止剤を併用する。

#### ③各種有機系殺菌剤

金属に対する腐食性が低い。

### ○ 殺菌剤の種類（「建築物における維持管理マニュアル」での分類）

#### ①多機能型

スケール防止剤、腐食防止剤、スライムコントロール剤とレジオネラ属菌の殺菌剤を含有するものです。薬注装置を使用し、連続的に注入して、その効果を発揮します。

#### ②単一機能型

スライムコントロール・レジオネラ属菌の殺菌機能を有するものです。腐食防止・スケール防止機能を有する薬剤を別途注入します。

## <レジオネラ症とは？>

レジオネラ症は、「①レジオネラ肺炎」と、「②ポンティアック熱」との2つに分けられます。

### ①レジオネラ肺炎

潜伏期間は2～10日。高熱、寒気、筋肉痛、吐き気、意識障害などを主な症状とする肺炎で、時として重症になり死に至る場合もある。

### ②ポンティアック熱

潜伏期間は1～2日。発熱を主症状とした非肺炎型疾患で、発熱、寒気、筋肉痛が見られ、一般に数日で軽快する。

また、レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病気にかかっている人など、抵抗力の弱い人が感染しやすいという特徴があります。レジオネラ症は、人から人へ感染することはありませんが、共通の感染源（冷却塔の冷却水、循環式浴槽等）から複数の人が感染することがあります。

### ○参考資料（ホームページ）

東京都健康安全研究センター「建築物衛生のページ」

<http://www.tokyo-eiken.go.jp/kenchiku/index.htm>

厚生労働省「建築物における維持管理マニュアル」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/seikatsu-eisei09/03.html>

### 【発行元】

東京都健康安全研究センター 広域監視部 建築物監視指導課 ビル衛生検査係  
東京都新宿区百人町3-24-1  
03-5937-1062

### <レジオネラ症とは？>

レジオネラ症は、病状の進行が早く適切な治療が遅れると死亡することもある「レジオネラ肺炎」と、インフルエンザに似た症状の「ポンティアック熱」の2つに分けられます。また、レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病気にかかっている人など、抵抗力の弱い人が感染しやすいという特徴があります。レジオネラ症は、人から人へ感染することはありませんが、共通の感染源（冷却塔の冷却水、循環式浴槽等）から複数の人が感染することがあります。

### <レジオネラ症とは？>

レジオネラ症は、病状の進行が早く適切な治療が遅れると死亡することもある「レジオネラ肺炎」と、インフルエンザに似た症状の「ポンティアック熱」の2つに分けられます。

- レジオネラ肺炎

潜伏期間は2～10日。高熱、寒気、筋肉痛、吐き気、意識障害などを主な症状とする肺炎で、時として重症になりしに至る場合もある。集団発生での発病率は1～7%以上といわれている。

- ポンティアック熱

潜伏期間は1～2日。発熱を主症状とした非肺炎型疾患で、発熱、寒気、筋肉痛が見られ、一般に数日で軽快する。集団発生での発病率は95%以上といわれている。

また、レジオネラ症には次のような特徴があります。

- レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病気にかかっている人など、抵抗力の弱い人が感染しやすい。
- 人から人へ感染することはないが、共通の感染源（循環式浴槽、冷却塔の冷却水等）から複数の人が感染することがある。